

## Vol.2 ~リコーダー奏者・篠原理華さんを偲んで~

February 1. 2006

当ウェブサイトにて紹介する予定だったリコーダー奏者、篠原理華さんが05年6月に病気にて逝去しました。篠原さんは東京大学医学部出身のリコーダー奏者として音楽の道を歩んでこられ、34歳という若さで忽然と去っていきました。

ホームページ作成の資料を整理している時、篠原さんと最初に仕事をした際に頂いた礼状や企画の参考として送られた資料を読み返し、改めて彼女の人への思いやりや、音楽に寄せる強い意思を感じました。私が篠原さんのことを語るのは甚だ不遜ではありますが、共感をもって仕事を出来る人として大切な存在でした。

04年初夏のリサイタルでは「ミュゼット奏者としてもデビューします。」との案内を頂きながら会場へ行けなかった無念。病院から出演依頼メールへの返信「今は療養中ですが回復しましたら音楽活動を再開します。その時には是非・・・」から伝わる彼女の無念。無念というしかない無常。今は天上にてミュージズとなり真摯に奏でる理華さんに感謝！

ミュゼット = 17, 18世紀のフランスで宮廷でのみ演奏された珍しい楽器。正式には「宮廷のミュゼット」と呼ばれる。

PS：原稿を書き終えた時点で、篠原理華さんのファンがウェブサイトを開いている事を知りました。理華さんに再会したような、とても素敵なサイトです。併せて文末にて紹介しています。是非、ご覧ください。  
【篠原理華 fan web site】 <http://shinohararika.sakura.ne.jp/>

【リコーダーの紹介】篠原理華ウェブサイトからの抜粋

リコーダーは純粋な器楽曲の中で使われていたのはもちろんですが、注目したいのは、劇中において天使が降りてくる場面や神々が登場するような場面ではしばしばリコーダーが用いられていたようだという事です。つまりリコーダーの音は神・天使などを暗示する役目を果たしていたということになります。確かに、教会などの荘厳な雰囲気の中でリコーダーの演奏を聴くと、実に清らかで神々しいと言いましょるか、本当に神様や天使が天から降りてきて私たちの頭上を漂っているような気がするのですから、不思議なものです。

教会でのリコーダーの演奏を聴いたことがない方、是非一度お試しになるようお勧めしたいと思います。そしてあなたの頭上で天使が舞っているのを感じて下さい！